

§ 5-2. 情報通信工学科 / Dept. of Information and Communication Engineering

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

■教育研究上の目的

今日の情報通信関連技術は、あらゆる産業分野における基幹技術としての影響力を持つようになり、社会生活の中に深く関係している。このように情報通信工学の裾野が限りなく広がり、技術的な可能性が満ち溢れる世界で、独創性を発揮し、多様化する先端技術を開拓できる技術者及び情報通信関連分野の研究能力を有する人材の養成を目的とする。

■修得する知識・能力 (学習・教育到達目標)

A 技術者として地球的視点から多面的に考える能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 問題を見出し、その解決のために複数の選択肢を考慮することができる。 2 問題解決にあたり、技術者としての判断だけでなく、地球的視点からも多面的に考える能力を示すことができる。
B 社会の仕組みや成り立ちを理解し、技術者として社会に対する倫理・モラルを身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 技術者倫理の知識を有し、技術が社会に与える影響や効果、および技術者の責任について考える能力を示すことができる。 2 社会、文化およびその歴史的発展についての知識を示すことができる。
C 自然科学に対する理解を深め、問題解決のために必要な数学、物理学等の基礎的素養を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 数学、物理学の基礎知識を示すことができる。 2 これらの知識を適用して現実的問題をモデル化し解を求めることができる。
D 情報・通信工学を支える基盤技術を理解・開発するための専門知識を修得し、その多面的な応用能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報工学、通信工学、およびコンピュータやネットワークの基礎知識を示すことができる。 2 学習した知識を実際の技術と関係づけて理解している。
E 課題解決のための工学的デザイン能力を示すことができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 問題解決に有用な方法を調査し、手順を計画し、実行できる。 2 得られた結果を解析し、評価することができる。さらに改善策を提示することができる。
F 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議など、国際的にも通用するコミュニケーション能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本語や英語の文章を読んで内容を正しく理解することができる。 2 自分の考えを適切に文書や口頭で説明でき、そのために有用なプレゼンテーション能力を身につけている。
G 修得した情報・通信工学の専門知識を基に、自主的に継続的に学習する能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 問題解決に有用な方法を調べ、それを基に考えることができる。
H 現実の条件の下で、計画的に問題を解決する能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 習得した知識を用い、想定される経済および環境の制約の下で、問題を解決する方法を計画し実行することができる。
I チームで仕事をするための能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 チームで仕事をする際、他者と協働しながら自己の行動を的確に判断し実行することができる。